准校長から５月号（平成２７年）

校舎２階の廊下を歩いていると、先生の説明の声が聞こえてくる。隣の教室には生徒と先生の明るい会話がある。グランドを照らす灯りが、生徒の生き生きとした動きに影をつくる。そんな風景が成城高校定時制の日常になっています。

５月の連休が明けてから６月上旬の前期中間考査まで、勉強中心の学校生活でした。成城高校定時制は２学期制なので、この中間考査の後には体育祭があり、そして夏休みを挟み、９月下旬の前期期末考査というスケジュールになっています。

５月１５日に、「スポーツテスト」を実施しました。目的は、自分自身の運動能力を知ることとスポーツに親しみ、健康で充実した学校生活を送ることです。テストという名前がついているのですが、成績とは関係なく目的のとおり、生徒たちはスポーツに親しんだ一日になりました。

種目は、「反復横跳び」「ハンドボール投げ」「５０m走」「シャトルラン」など、どこの学校でもするものですが、生徒全員がたくさんの種目を一度に一日で行うことができるのが、この小規模の定時制の学校の良いところです。全員で参加し、声を出し、そして全力を出し頑張る。こうしてスポーツに親しむことができると思います。一人ではなかなか頑張れない人でも、仲間の協力や友だちの様子を見て、頑張ることができるのだと改めて確認できました。生徒たちには、体を動かすことの楽しさを知ってくれたらと思います。この一日は、教室などではあまり話すことができない生徒たちとも会話が出来ました。みんなほんとに表情が良かったです。よく頑張りました。

さて、私もこの学校に着任して２カ月が経ちました。いろいろと分かってきたこともありますので、何度かに分けて学校生活以外の成城高校などについて紹介したいと思います。

成城高校の名前の由来を紹介いたします。昭和３０年頃には東成区と城東区に公立の高校がなかったため、府立高校の誘致運動があったそうです。そこで、今後の産業社会の担い手を育成する工業高校をつくることになり、区の境界あたりのこの地に学校ができました。「東成＋城東」ということで、成城にするか城成にするかで検討の結果、音韻がよいということで成城になった（当時は、成城工業高校でした）と本校記念誌にあります。こうして説明するほど簡単な話ばかりではなかったと思いますが、学校が設置されたことについて、当時の方々の苦労を偲び、感謝したいと思います。全日制の課程の成城工業高校ができて４年後に、勤労青少年の学びを保障することを目的に定時制の課程が設置されました。

開校当時の学校の写真を見ると周囲は田畑などです。学校の敷地の一部に高射砲陣地跡地も利用したそうです。また降雨ともなれば、浸水被害もあった土地だったそうです。当時の生徒たちは、仕事が終わった後に放出駅や約２キロも離れている近鉄の布施駅から徒歩で登校していたようです。すごいですね。雨降りともなれば舗装された道ばかりではなかったでしょうから、きっと泥だらけになっていたことでしょう。

学校の雰囲気や周囲の様子、登校している生徒の姿を見ていると、約５０年前のことが夢のようです。校舎はその当時とは変わっていませんが、歴史を少しずつ刻み、学校を取り巻く雰囲気も変わっていき、今の学校があるのだと思います。

最後まで、お読みいただきましてありがとうございました。

成城高校定時制の課程　准校長　富田　公一